

遠隔支援による発達障害児の自己肯定感を育む実践的研究

森川 結衣¹⁾・和田 充紀²⁾

Practical Study on Online Support to Self-Esteem of the Developmental Disabilities

Yui MORIKAWA & Miki WADA

学校生活への適応に課題があり、社会資源として大学の場を活用した休日の活動に継続的に参加している発達障害のある中学生および高校生にとって、毎月定期的を実施する大学生との活動が日常のストレス発散や気分転換、そして自己表現の場として機能している。しかしながら、コロナ禍において、それまで当たり前に行ってきた対面での活動が制限されることとなった。そこで、対面での活動以外でも継続的な関わりの機会の確保を目指し、郵送による対象者への通信（以下、中高部通信）を通じたかわりや遠隔による支援を実施し、対象者の「楽しい」「安心」「充実」等による自己肯定感を支える実践を行い、その効果を検証した。活動時毎の気持ちの変容の分析結果からは、対面による活動や支援が対象者の自己肯定感を支えていることがうかがえた。対面での活動が実施できない状況で、中高部通信をととして、「安心」「積極的」「うれしい」「落ちつく」「さびしい」「気楽」「充実」の気持ちを支える結果が示されたことから、遠隔支援のあり方を検討していく必要性が示唆された。

キーワード：発達障害、自己肯定感、遠隔支援、コロナ禍

Key words：Developmental Disabilities, Self-Esteem, On-line Support, The Disaster of Covid-19

I. 問題と目的

発達障害児の自尊感情や自己肯定感を育むことの重要性については以前より指摘されている。阿部・廣瀬ら（2008）は発達障害児の自己肯定感の低下が学校生活における不適応行動の原因となることが多いことを指摘し、発達障害児の自己肯定感を高めるには学校における多様な教育活動を子どもの安心、自信、自己肯定感の獲得の視点から効果的に結びつけ、評価していく手続きが求められると述べている。文部科学省教育再生実行会議（2017）は『自己肯定感を高め、自らの手で未来を切り拓く子供を育む教育の実現に向けた、学校、家庭、地域の教育力の向上（第十次提言）』においてこれからの時代に対応するために主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する取り組みや自己肯定感を育む取り組みを進めていくことが求められると指摘している。

学校における教育活動では、田島ら（2018）は特

別支援学校では各児の障害特性、認知特性、性格、生活ニーズなどを踏まえた指導および支援を行っている」と述べ、河口ら（2016）は通常学級において保護者と学校が積極的に連携したことで、自己肯定感を高める可能性のある活動へと転換できたと述べ、趙・吉利（2019）は教職員が日常の学習指導や学校行事などの活躍できる場面を工夫することで失敗経験から蓄積した自信のなさを軽減したことを報告している。これらの学校における教育活動に加え学外での活動においては、奥住・国分ら（2006）は学校教育はもちろんではあるが、放課後活動あるいは休日活動についても十分な体制をとる必要があると述べ、大学の2つの研究室と大学近隣にある養護学校とで連携して休日支援を行った。瀧澤・佐藤ら（2015）は我が国においては、福祉や医療などのさまざまな領域で発達障害児の支援が実施され、支援の場が拡充していると述べている。また、川合（2016）は土曜教室により安定した関係性が生まれ自己肯定感が高まることを示し、阿部（2014）は、親子活動により成功体験を保障して親子双方のスキルを伸展することができると指摘している。このよ

1) 富山県立にいかわ総合支援学校

2) 富山大学教育学部

うに発達障害児の自己肯定感を育むための実践研究は、学校における教育活動とともに、学校以外の福祉などを含めた様々な場で実践もすすめられている。

一方で、2020年には新型コロナウイルス感染症の影響で対面による活動が制限された。教育に関しては、遠隔による学習支援の取り組みがすすめられているが、遠隔支援による自己肯定感を育む支援についての研究は見当たらない。そこで、本研究では発達障害児を対象として、郵送による非対面の活動を行い、遠隔支援の効果を自己肯定感の育みの視点から検討することを目的とする。

自己肯定感の定義は、こころの問題辞典（2006）では「自分の可能性を信じ、自分はできるんだという自信をもち、肯定的に自己を認識すること」、高垣（2006）は「自分が自分であって大丈夫という感覚」とし、自尊感情の定義は、金澤ら（2007）は「自分はかけがえのない大切な存在であると考え感情」、東京都教職員研修センター（2011）は「自分のできないことなどすべての要素を包括した意味での『自分』を他者とのかわり合いを通してかけがえのない存在、価値ある存在としてとらえる気持ち」とした。本研究ではこれらの定義より、自己肯定感が育まれる要素として「居場所がある」「認めてくれる」「やってみよう」の3つを挙げることで、この3つの要素を構成する際に考えられる気持ちとして「楽しい」「安心」「退屈」「積極的」「緊張」「うれしい」「落ちつく」「さびしい」「気楽」「充実」の10項目を設定した。

Ⅱ. 方法

1. 対象

学校生活への適応に課題があり、休日に大学における大学生との活動に継続的に参加している発達障害のある中学生および高校生10名とする。

2. 期間

2020年4月～2021年10月

3. 実践方法

(1) 学外での非対面による活動実践

対面での活動が実施できない期間に、紙面による「中高部通信」を作成して対象者の各自宅に郵送し、対面での活動と支援に代えて、「中高部通信」を通した非対面でのやりとりによる遠隔での支援を継続実施する。具体的には、

- ・月1回程度、対象者に大学生からの近況や家庭でできる活動等を記載した「中高部通信」を作成し郵送する。
- ・対象者からの便りに対しては、大学生からも返事を送り、非対面によるやり取りによる遠隔での支援を行う。

(2) 対象者および保護者から見た対象者の気持ちの変容の検証

非対面によるやり取りと遠隔支援に対する対象者とその保護者の変容を検証する。

- ・「対面での活動実施時」「対面での活動中止時」「中高部通信による遠隔支援時」「リモートによる遠隔支援時」における気持ちを、「楽しい」「安心」「退屈」「積極的」「緊張」「うれしい」「落ちつく」「さびしい」「気楽」「充実」の10項目において、「非常にそう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらともいえない」「どちらかといえばそう思わない」「全くそう思わない」の5段階にて評価を求める。
- ・中高部通信を受け取った際の対象者の家庭での様子や活動の様子および遠隔支援に対する感想や要望について、自由記述を求める

4. 評価

評価は以下の2つの結果より行う。

(1) 非対面での活動の記録分析

- ・中高部通信に対する返信内容の記録

(2) 対象者および保護者から見た対象者の気持ちの変容結果の分析

- ・通信のやり取りによる非対面の活動に関する対象者の満足感や保護者の安心感
- ・「非常にそう思う」を5点、「どちらかといえばそう思う」を4点、「どちらともいえない」を3点、「どちらかといえばそう思わない」を2点、「全くそう思わない」を1点として各項目の人数と割合を算出する。また、得点の平均を求めて比較する。
- ・非対面での活動の感想からキーワードを抽出して分析を行う。

なお、10項目中「退屈」「緊張」「さびしい」の3項目については、逆転項目として得点を処理した。

対象者は、10名中8名から回答を得た。保護者は10名中7名から回答を得た。

5. 倫理的配慮

対象者及び保護者に研究の趣旨、個人情報保護、

得られたデータの取り扱いについて書面で説明を行い、同意を得た上で実施する。

Ⅲ. 遠隔支援の実際

対面での活動が実施できない期間に、紙面による「中高部通信」を作成して対象者の各自宅に郵送し、対面での活動と支援に代えて、「中高部通信」を通した非対面でのやりとりによる遠隔での支援を継続実施した。月1回程度、対象者に大学生からの近況や家庭でできる活動等を記載した「中高部通信」を作成し郵送した。2020年4月に第1号通信を作成・郵送し、2021年10月に第20号通信を作成・郵送した。中高部通信の内容は、「クイズ」や「おとなの塗り絵」「お風呂上りストレッチ」「簡単調理レシピ」「100円ショップの便利なそうじグッズ紹介」「ファッションアイテム」「謎解き」などで構成した(表1)。

中高部通信を家庭で受け取った対象者からは、郵送による返信の便りが大学に届くことや、大学から送った中高部通信のクイズへの回答や大人の塗り絵に着色をして大学に送ってくるなどの返信が11通届いた。

2021年8月と10月には、中高部通信に加えて画面で顔や様子を見ながら活動が行える「リモートによる活動」を2回行った。

Ⅳ. 結果

1. 中高部通信に対する対象者からの反応について

(1) 対象者からの返信①

中学生からの手紙には、中高部通信に対する感想と中学生が休校中にしたことの報告、早く大学での活動を再開して皆に会いたいという気持ちが書いてあった(図1)。

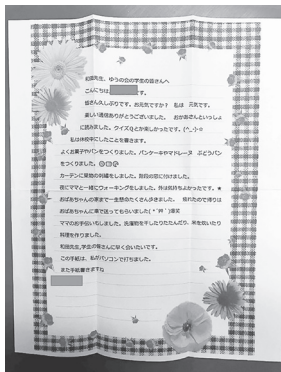


図1 中学生からの返信①

(2) 対象者からの返信②

中学生からの手紙には、入っている部活動、好きな

食べ物、好きなスポーツ、好きな食べ物の紹介や勉強を頑張るという意思表示、大学での対面活動の復活を望む気持ちが書いてあった。また、関わっている大学生のネームプレートを自作した物が届いた。(図2・図3)。

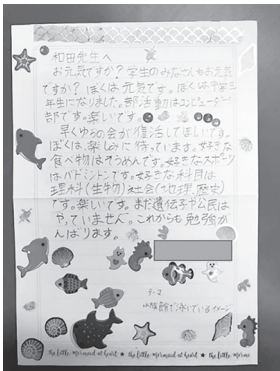


図2 中学生からの返信②

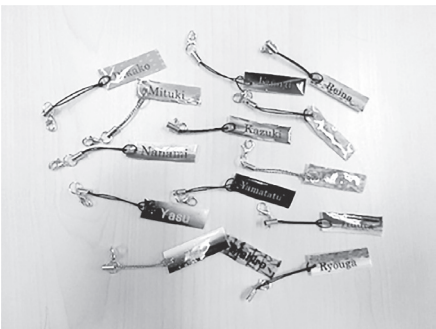


図3 中学生自作の大学生のネームプレート

(3) 対象者からの返信③

中高部通信では、中学生の近況報告や大学での対面活動が中止になり残念であること、対面活動を待ち望む声が見られた(図4)。

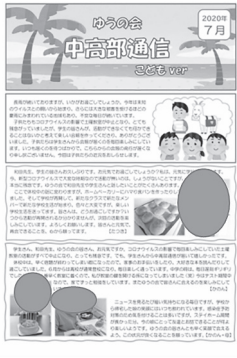


図4 中学生からの返信③

(4) 対象者からの返信④

第5号通信の「絵しりとり」を行い、完成した物が「ぜ

表 1 遠隔支援の実際

実施年月日		非対面での活動内容			
		大学生からの便り		中高生からの便り	リモートによる活動
2020 年	4 月	第 1 号通信	「写真」		
		第 2 号通信	「マイブーム」 「クイズ」		
	5 月	第 3 号通信	「おすすめの料理」 「家でできる筋トレ」		
	6 月	第 4 号通信	「最近の嬉しい出来事」 「クイズ」		
	7 月			中高生からの手紙① 中高生からの手紙② 中高生からの手紙③	
	8 月	第 5 号通信	「通信感想」 「絵しりとり」	中高生からの手紙④	
		第 6 号通信	「自粛が終わったら」 「ミニナンプレ」		
	9 月	第 7 号通信	「秋といえば」 「おとなの塗り絵」	中高生からの手紙⑤ 中高生からの手紙⑥	
	10 月	第 8 号通信	「ハロウィン仮装」 「お風呂上りストレッチ」	中高生からの手紙⑦	
	11 月	第 9 号通信	「クリスマスプレゼント」 「簡単調理レシピ」		
	12 月	第 10 号通信 第 11 号通信	「好きなテレビ番組」 「4 コマ漫画をつくろう」 「おすすめの本」 「100 円ショップの便利なそうじグッズ紹介」		
2021 年	1 月			中高生からの手紙⑧	
	2 月	第 12 号通信	「おすすめスイーツ」 「クイズ」	中高生からの手紙⑨ 中高生からの手紙⑩	
	3 月	第 13 号通信	「春におすすめの曲」 「簡単ヘアアレンジ」	中高生からの手紙⑪	
	4 月	第 14 号通信	「おすすめの飲みものの紹介」 「ファッションアイテム」		
	5 月	第 15 号通信	「家でのおすすめのすごし方」 「5 月クイズ」		
	6 月	第 16 号通信	「雨の日のすごし方」 「お店紹介」		
	7 月	第 17 号通信	「夏をたのしくすごす方法」 「オリンピックの紹介」 「一筆書き」		
	8 月	第 18 号通信	「秋を楽しめるスポット紹介」 「謎解き」		第 1 回リモート活動 ・自己紹介 ・お宝紹介 ・旗上げゲーム
	9 月	第 19 号通信	「秋に関する本紹介」 「秋の食材を使った料理」 「クロスワードパズル」		
	10 月	第 20 号通信	「秋のファッション」 「ハロウィンお菓子作り」		第 2 回リモート活動 ・Zoom カフェ ・お楽しみクイズ

ひ見て下さい」というメッセージつきで届いた(図5)。

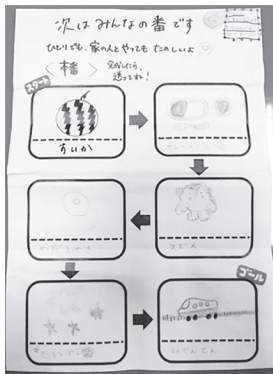


図5 中高生からの返信④

(5) 対象者からの返信⑤

中高生からの手紙には、学校の体育大会の話や校外学習の話、早く大学での対面活動で皆に会いたいという気持ちが書いてあった(図6)。

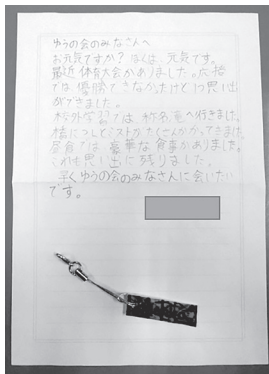


図6 中高生からの返信⑤

(6) 対象者からの返信⑥

中高生からの手紙には、通信で送ったナンプレを母と楽しんだという報告、コロナが落ちついた後でしたいこと、早く大学での対面活動で皆に会いたいという気持ちが書いてあった(図7)。

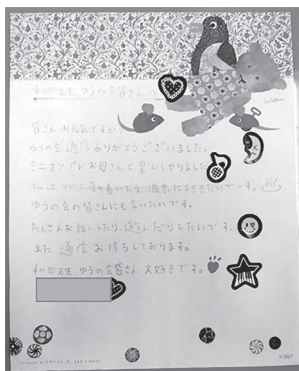


図7 中高生からの返信⑥

(7) 対象者からの返信⑦

中高生からの手紙には、通信への感謝の言葉や楽しみにしている気持ち、大学での対面活動で皆に会いたいという気持ちが書いてあった。また、第7号通信の「おとなの塗り絵」を仕上げて届いた(図8)。

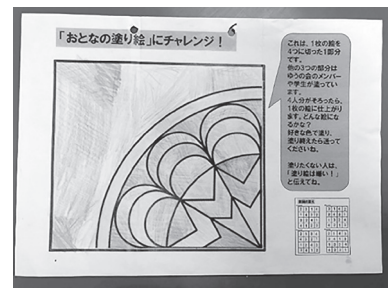
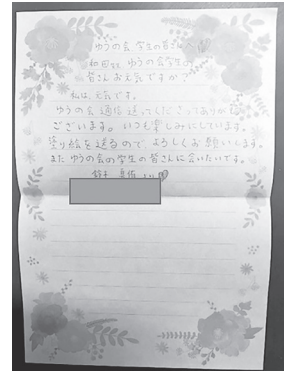


図8 中高生からの返信⑦と大人の塗り絵

(8) 対象者からの返信⑧

中高部通信では、新年の抱負、今頑張っていること、学校生活の報告や、早く大学での対面活動で皆に会いたいという気持ちが書いてあった(図9)。



図9 中高生からの返信⑧

(9) 対象者からの返信⑨

中高生からの手紙には、第9号通信の「マグカップ蒸しパン」や「マグカップオムライス」を参考に作ってみたいという声や「100円均一ショップの掃除グッズ紹介」で紹介された掃除道具を使って掃除

をしたいという声、第10号通信の「4コマ漫画」が面白かったという感想が見られた（図10）。

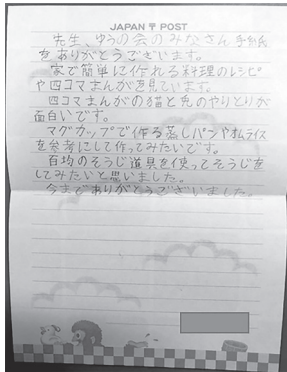


図10 中高生からの返信⑨

(10) 対象者からの返信⑩

通信のランキング形式のメッセージを見て、中高生が自分の好きなものをランキング化してまとめた物が届いた（図11）。

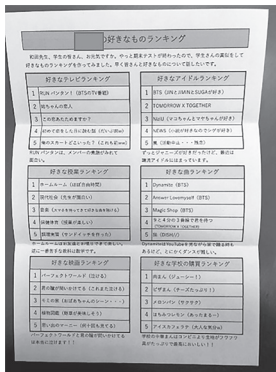


図11 中高生からの返信⑩

(11) 対象者からの返信⑪

中高生からの手紙には、対面での活動がなくなり残念だが、通信が届くことが嬉しいということ、近況報告、活動再開を願う気持ちが書かれていた（図12）。

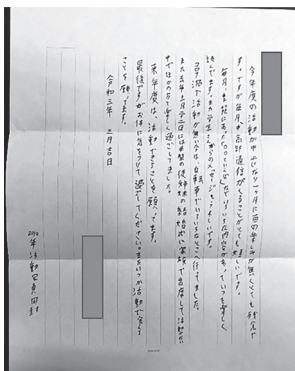


図12 中高生からの返信⑪

2. 「対面での活動時」「対面での活動中止時」「中高部通信による遠隔支援時」「リモートによる遠隔支援時」における対象者の満足度

(1) 項目ごとの満足度の変容

① 「楽しい」の項目について

対象者の回答では、「楽しい」という気持ちは、対面での活動実施時では「非常にそう思う」が8人中8人（100%）であった。対面での活動中止時では「どちらかといえばそう思わない」が5人（63%）、「どちらともいえない」が2人（25%）、「どちらかといえばそう思う」が1人（13%）であった。中高部通信による遠隔支援時は「非常にそう思う」が6人（75%）、「どちらかといえばそう思う」「どちらともいえない」が共に1人（13%）であった。また、リモートによる遠隔支援時では「非常にそう思う」が5人（63%）、「どちらかといえばそう思う」が2人（25%）、「どちらともいえない」が1人（13%）であった。

保護者から見た対象者の気持ち「楽しい」についての回答では、対面での活動実施時では「非常にそう思う」が7人中7人（100%）であった。対面での活動中止時では「全くそう思わない」が6人（86%）、「どちらともいえない」が1人（14%）であり、中高部通信による遠隔支援時では「非常にそう思う」が4人（57%）、「どちらかと言えばそう思う」が2人（29%）、「どちらともいえない」が1人（14%）であった。また、リモートによる遠隔支援時では「非常にそう思う」が5人（71%）、「どちらかといえばそう思う」が2人（29%）であった。

② 「安心」の項目について

対象者の回答では、「安心」という気持ちは、対面での活動実施時では「非常にそう思う」が8人中5人（63%）、「どちらかといえばそう思う」が3人（38%）であった。対面での活動中止時では「どちらかといえばそう思わない」が4人（50%）、「どちらともいえない」「どちらかといえばそう思わない」共に2人（25%）であり、中高部通信による遠隔支援時では「非常にそう思う」が7人（88%）、「どちらともいえない」が1人（13%）であった。また、リモートによる遠隔支援時では「非常にそう思う」が6人（75%）、「どちらかといえばそう思う」が1人（13%）であった。

保護者から見た対象者の気持ち「安心」についての回答では、対面での活動実施時では「非常にそう思う」が7人中6人（86%）、「どちらかといえばそう思う」が1人（14%）であった。対面での活動中止時では「全

くそう思わない」の割合が4人(57%)、「どちらともいえない」が2人(29%)、「どちらかといえばそう思わない」が1人(14%)であり、中高部通信による遠隔支援時では「非常にそう思う」が3人(43%)、「どちらかと言えばそう思う」「どちらともいえない」が共に2人(29%)であった。また、リモートによる遠隔支援時では「どちらかといえばそう思う」が3人(43%)、「非常にそう思う」「どちらともいえない」が共に2人(29%)であった。

③「退屈」の項目について

対象者の回答では、「退屈」という気持ちは、対面での活動実施時では「全くそう思わない」が8人中6人(75%)、「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」が共に1人(13%)であった。対面での活動中止時では「どちらかといえばそう思う」が3人(38%)、「非常にそう思う」「どちらかといえばそう思わない」が共に2人(25%)、「どちらともいえない」が1人(13%)でありし、中高部通信による遠隔支援時では「全くそう思わない」が4人(50%)、「非常にそう思う」「どちらかと言えばそう思う」「どちらともいえない」「どちらかといえばそう思わない」が共に1人(13%)であった。また、リモートによる遠隔支援時では「全くそう思わない」が3人(38%)、「どちらかといえばそう思う」が2人(25%)、「非常にそう思う」「どちらともいえない」「どちらかといえばそう思わない」が共に1人(13%)であった。

保護者から見た対象者の気持ち「退屈」についての回答では、対面での活動実施時では「全くそう思わない」が7人中6人(86%)、「どちらかといえばそう思わない」が1人(14%)であった。対面での活動中止時では「非常にそう思う」が6人(86%)、「どちらともいえない」が1人(14%)であり、中高部通信による遠隔支援時では「どちらともいえない」「全くそう思わない」が共に3人(43%)、「どちらかと言えばそう思わない」が1人(14%)であった。また、リモートによる遠隔支援時では「全くそう思わない」が4人(57%)、「どちらともいえない」が3人(43%)であった。

④「積極的」の項目について

対象者の回答では、「積極的」という気持ちは、対面での活動実施時では「非常にそう思う」「どちらか

かといえばそう思わない」が2人(25%)であった。対面での活動中止時では「どちらともいえない」が4人(50%)、「全くそう思わない」が2人(25%)、「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」が共に2人(25%)であり、中高部通信による遠隔支援時では「どちらともいえない」が4人(50%)、「非常にそう思う」が3人(38%)、「どちらかといえばそう思う」が1人(13%)であった。また、リモートによる遠隔支援時では「どちらかといえばそう思う」が3人(38%)、「非常にそう思う」「どちらともいえない」が共に2人(25%)、「どちらかといえばそう思わない」が1人(13%)であった。

保護者から見た対象者の気持ち「積極的」についての回答では、対面での活動実施時では「非常にそう思う」の割合が7人中5人(71%)、「どちらかといえばそう思う」「どちらともいえない」が共に1人(14%)であった。対面での活動中止時では「全くそう思わない」が5人(71%)、「どちらともいえない」が2人(29%)であり、中高部通信による遠隔支援時では「どちらともいえない」が4人(57%)、「どちらかと言えばそう思う」が2人(29%)、「非常にそう思う」が1人(14%)であった。また、リモートによる遠隔支援時では「どちらともいえない」が4人(57%)、「非常にそう思う」が2人(29%)、「どちらかといえばそう思う」が1人(14%)であった。

⑤「うれしい」の項目について

対象者の回答では、「うれしい」という気持ちは、対面での活動実施時では「非常にそう思う」が8人中7人(88%)、「どちらかといえばそう思う」が1人(13%)であった。対面での活動中止時では「どちらかといえばそう思う」「どちらともいえない」「全くそう思わない」が共に2人(25%)、「非常にそう思う」「どちらかといえばそう思わない」が共に1人(13%)であり、中高部通信による遠隔支援時では「非常にそう思う」が6人(75%)、「どちらかといえばそう思う」「どちらともいえない」が共に1人(13%)であった。また、リモートによる遠隔支援時では「非常にそう思う」が5人(63%)、「どちらかといえばそう思う」が2人(25%)、「どちらともいえない」が1人(13%)であった。

保護者から見た対象者の気持ち「うれしい」についての回答では、対面での活動実施時では「非常にそう思う」の割合が7人中7人(100%)であった。対面での活動中止時では「全くそう思わない」が4人(57%)、

「どちらかといえばそう思う」が2人(29%)、「非常にそう思う」が1人(14%)であり、中高部通信による遠隔支援時では「全くそう思わない」が4人(57%)、「どちらかといえばそう思わない」が2人(29%)、「非常にそう思う」が1人(14%)であった。また、リモートによる遠隔支援時では「全くそう思わない」が4人(57%)、「どちらかといえばそう思わない」が2人(29%)、「非常にそう思う」が1人(14%)であった。

⑥「落ちつく」の項目について

対象者の回答では、「落ちつく」という気持ちは、対面での活動実施時では「非常にそう思う」が8人中5人(63%)、「どちらかといえばそう思う」が3人(38%)であった。対面での活動中止時では「どちらともいえない」が3人(38%)、「どちらかといえばそう思う」が2人(25%)、「非常にそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「全くそう思わない」が共に1人(13%)であり、中高部通信による遠隔支援時では「非常にそう思う」が4人(50%)、「どちらかといえばそう思う」が3人(38%)、「どちらともいえない」が1人(13%)であった。また、リモートによる遠隔支援時では「非常にそう思う」「どちらかといえばそう思う」が共に4人(50%)であった。

保護者から見た対象者の気持ち「落ちつく」についての回答では、対面での活動実施時では「非常にそう思う」の割合が7人中3人(43%)、「どちらかといえばそう思う」が2人(29%)、「どちらかといえばそう思わない」「全くそう思わない」が共に1人(14%)であった。対面での活動中止時では「全くそう思わない」が6人(86%)、「どちらともいえない」が1人(14%)であり、中高部通信による遠隔支援時では「どちらともいえない」が4人(57%)、「どちらかといえばそう思う」が3人(43%)であった。また、リモートによる遠隔支援時では「どちらかといえばそう思う」が4人(57%)、「どちらともいえない」が2人(29%)、「どちらかといえばそう思わない」が1人(14%)であった。

⑦「さびしい」の項目について

対象者の回答では、「さびしい」という気持ちは、対面での活動実施時では「全くそう思わない」が8人中5人(63%)、「どちらともいえない」が3人(38%)であった。対面での活動中止時では「非常にそう思う」が5人(63%)、「どちらかといえばそう思う」「どちらともいえない」「どちらかといえばそう思わない」が共に1人(13%)であり、中高部通信による遠隔

支援時では「全くそう思わない」が3人(38%)、「非常にそう思う」「どちらかといえばそう思わない」が2人(25%)、「どちらかといえばそう思う」が1人(13%)であった。また、リモートによる遠隔支援時では「非常にそう思う」が3人(38%)、「どちらかといえばそう思う」「全くそう思わない」が共に2人(25%)、「どちらともいえない」が1人(13%)であった。

保護者から見た対象者の気持ち「さびしい」についての回答では、対面での活動実施時では「全くそう思わない」の割合が7人中5人(71%)、「非常にそう思う」「どちらかといえばそう思う」が共に1人(14%)であった。対面での活動中止時では「非常にそう思う」が5人(71%)、「どちらかといえばそう思う」「どちらともいえない」が共に1人(14%)であり、中高部通信による遠隔支援時では「全くそう思わない」が4人(57%)、「どちらともいえない」が2人(29%)、「どちらかといえばそう思わない」が1人(14%)であった。また、リモートによる遠隔支援時では「どちらともいえない」「全くそう思わない」が共に3人(43%)、「どちらかといえばそう思わない」が1人(14%)であった。

⑧「気楽」の項目について

対象者の回答では、「気楽」という気持ちは、対面での活動実施時では「非常にそう思う」の割合が8人中7人(88%)、「どちらかといえばそう思う」が1人(13%)であった。対面での活動中止時では「どちらともいえない」が4人(50%)、「非常にそう思う」が2人(25%)、「どちらかといえばそう思う」「全くそう思わない」が共に1人(13%)であり、中高部通信による遠隔支援時では「どちらかといえばそう思う」が4人(50%)、「非常にそう思う」が2人(25%)、「どちらともいえない」「どちらかといえばそう思わない」が1人(13%)であった。また、リモートによる遠隔支援時では「どちらかといえばそう思う」が4人(50%)、「非常にそう思う」が3人(38%)、「どちらともいえない」が1人(13%)であった。

保護者から見た対象者の気持ち「気楽」についての回答では、対面での活動実施時では「非常にそう思う」の割合が7人中4人(57%)、「どちらかといえばそう思う」「どちらともいえない」「どちらかといえばそう思わない」が共に1人(14%)であった。対面での活動中止時では「全くそう思わない」が4人(57%)、「どちらかといえばそう思う」「どちらともいえない」「どちらかといえばそう思わない」が共に1人(14%)であり、中高部通信による遠隔支援時では「どちらと

もいえない」が5人（71%）、「どちらかと言えばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」が共に1人（14%）であった。また、リモートによる遠隔支援時では「どちらともいえない」が4人（57%）、「どちらかといえばそう思う」が2人（29%）、「どちらかといえばそう思わない」が1人（14%）であった。

⑨「充実」の項目について

対象者の回答では、「充実」という気持ちは、対面での活動実施時では「非常にそう思う」が8人中7人（88%）、「どちらともいえない」が1人（13%）であった。対面での活動中止時では「どちらかといえばそう思わない」が4人（50%）、「非常にそう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらともいえない」「全くそう思わない」が共に1人（13%）であり、中高部通信による遠隔支援時では「どちらかといえばそう思う」が3人（38%）、「非常にそう思う」「どちらともいえない」が共に2人（25%）、「全くそう思わない」が1人（13%）であった。また、リモートによる遠隔支援時では「非常にそう思う」が4人（50%）、「どちらかといえばそう思う」が3人（38%）、「どちらともいえない」が1人（13%）であった。

保護者から見た対象者の気持ち「充実」についての回答では、対面での活動実施時では「非常にそう思う」の割合が7人中6人（86%）、「どちらかといえばそう思う」が1人（14%）であった。対面での活動中止時では「全くそう思わない」が6人（86%）、「どちらかといえばそう思わない」が1人（14%）であり、中高部通信による遠隔支援時では「非常にそう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」が共に2人（29%）、「全くそう思わない」が1人（14%）であった。また、リモートによる遠隔支援時では「非常にそう思う」が4人（57%）、「どちらともいえない」が3人（43%）であった。

⑩「緊張」の項目について

対象者の回答では、「緊張」という気持ちは、対面での活動実施時では「非常にそう思う」「どちらともいえない」が共に8人中3人（38%）、「どちらかといえばそう思う」「全くそう思わない」が共に1人（13%）であった。対面での活動中止時では「どちらともいえない」が4人（50%）、「全くそう思わない」が2人（25%）、「非常にそう思う」「どちらかといえばそう思わない」が共に1人（13%）であり、中高部通信による遠隔支援時では「全くそう思わない」が

6人（75%）、「どちらかといえばそう思わない」が2人（25%）であった。また、リモートによる遠隔支援時では「全くそう思わない」が5人（63%）、「どちらともいえない」が2人（25%）、「どちらかといえばそう思わない」1人（13%）であった。

保護者から見た対象者の気持ち「緊張」についての回答では、対面での活動実施時では「どちらともいえない」「全くそう思わない」の割合が共に7人中2人（29%）、「非常にそう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」が共に1人（14%）であった。対面での活動中止時では「どちらともいえない」「全くそう思わない」が共に3人（43%）、「どちらかといえばそう思わない」が1人（14%）であり、中高部通信による遠隔支援時では「どちらともいえない」「全くそう思わない」が共に3人（43%）、「どちらかといえばそう思わない」が1人（14%）であった。また、リモートによる遠隔支援時では「どちらかといえばそう思う」が3人（43%）、「非常にそう思う」「どちらともいえない」が共に2人（29%）であった。

(2) 支援場面ごとの気持ちの変容について

①対面での活動実施時

対象者8名の回答による得点の平均は、「楽しい」5.0点、「安心」4.6点、「退屈」4.5点、「積極的」3.9点、「うれしい」4.9点、「落ち着く」4.6点、「さびしい」4.3点、「気楽」4.9点、「充実」4.8点、「緊張」2.4点であった。

保護者から見た対象者の気持ちについて保護者7名の回答による得点の平均は、「楽しい」5.0点、「安心」4.9点、「退屈」4.9点、「積極的」4.6点、「うれしい」5.0点、「落ち着く」3.7点、「さびしい」4.0点、「気楽」4.1点、「充実」4.9点、「緊張」3.3点であった。

②対面での活動中止時

対象者8名の回答による得点の平均は、「楽しい」2.5点、「安心」2.8点、「退屈」2.4点、「積極的」2.5点、「うれしい」2.9点、「落ち着く」3.1点、「さびしい」1.8点、「気楽」3.4点、「充実」2.6点、「緊張」3.4点であった。

保護者から見た対象者の気持ちについて保護者7名の回答による得点の平均は、「楽しい」1.3点、「安心」1.7点、「退屈」1.3点、「積極的」1.6点、「うれしい」1.9点、「落ち着く」1.3点、「さびしい」1.4点、「気楽」1.9点、「充実」1.1点、「緊張」4.0点であった。

③中高部通信による遠隔支援時

対象者8名の回答による得点の平均は、「楽しい」4.6

点、「安心」4.8点、「退屈」3.8点、「積極的」3.9点、「うれしい」4.8点、「落ち着く」4.4点、「さびしい」3.4点、「気楽」3.9点、「充実」3.6点、「緊張」3.1点であった。

保護者から見た対象者の気持ちについて保護者7名の回答による得点の平均は、「楽しい」4.4点、「安心」4.1点、「退屈」4.0点、「積極的」3.6点、「うれしい」4.6点、「落ち着く」3.4点、「さびしい」4.3点、「気楽」3.0点、「充実」3.6点、「緊張」4.0点であった。

④リモートによる遠隔支援時

対象者8名の回答による得点の平均は、「楽しい」4.5点、「安心」4.4点、「退屈」3.4点、「積極的」3.8点、「うれしい」4.4点、「落ち着く」4.5点、「さびしい」2.5点、「気楽」4.3点、「充実」4.4点、「緊張」2.8点であった。

保護者から見た対象者の気持ちについて保護者7名の回答による得点の平均は、「楽しい」4.7点、「安心」4.0点、「退屈」4.1点、「積極的」3.7点、「うれしい」4.6点、「落ち着く」3.4点、「さびしい」4.0点、「気楽」3.1点、「充実」4.1点、「緊張」2.0点であった。

3. 自由記述から

保護者からは、24件の記述がみられた。

「毎回、大学からの郵便を楽しみにして、目を通していたようです。」等の気持ち「楽しみ」に関する内容が8件。「毎回、通信が届くたびに、届いた～と嬉しそうに開封しておりました。」等の気持ち「うれしい」に関する内容が2件。「本人はファッションに興味があるので・・・そんな話題があると嬉しいです。」等の「本人の興味」に関する内容が6件。「通信を楽しみにしていましたが、見終わったあとは、やはり『早くみんなに会いたい』という気持ちになるので、対面での活動がやはり1番うれしいようです。」等の「対面活動への期待」に関する内容が6件であった。

V. 考察

通信に対する対象者からの返信は計11回であった。返信内容として、通信の内容に関する感想、対象者の近況報告、対面での活動再開を望む声が見られた。また、対象者が「メッセージ」を参考に好きな物ランキングを作成したり、「チャレンジ」の内容に取り組んでみたりしたといった手紙も届いた。このことから、対象者は通信が届くことを楽しみにしており、「やってみよう」という気持ちが育まれているとともに、非対面でも活動ややりとりができる状況に「居場所がある」と感じているということが考えられる。さらに、

対象者に対して学生から返信を送ったところ、やりとりが続いたり、通信の内容に取り組んだ様子が送られてきたりした。このことから、手紙のやりとりにより「認めてくれる」という気持ちが芽生え、次の活動を行う意欲につながったと考えられる。

学校外での活動において、対面での活動実施時にある程度形成されていた自己肯定感を育むことにつながる10項目のうち9つの項目が、対面での活動中止時に小さくなったが、中高部通信やリモートによる遠隔支援を通して再び大きくなったことから、非対面の活動においても、遠隔支援により対面での活動実施時のように自己肯定感を育むことにつながる効果があると考えられる。

遠隔支援に対する満足度は個々で異なるが、特に変化が見られた要素は「楽しい」「安心」「積極的」「うれしい」「さびしい」「充実」であった。

また、自己肯定感を育むことにつながる3つの要素である「やってみよう」「居場所がある」「認めてくれる」を育むには、以下の3点を意識することが大切であると考ええる。

1. 興味をもつことができる内容を提供する

非対面時でも通信や手紙等のやりとりを通してつながりを持ち続けることで、「居場所がある」という気持ちにつながると考える。

2. つながりをもつ

通信や手紙等を通して本人の活動に対する称賛や共感の言葉を贈ることで「認めてくれる」という気持ちにつながると考える。

3. 本人の活動を認める

1人1人の興味の有無を知り、活動内容を検討することで「やってみよう」という気持ちにつながると考える。

この3点を意識することで非対面での活動において自己肯定感を育むことにつながるのではないかと考える。

VI. 謝辞

本研究にご協力をいただいた大学における休日の活動に継続的に参加している発達障害のある中学生・高校生および保護者皆様に心より感謝申し上げます。

引用・参考文献

・阿部美穂子(2014) 発達に気がかりがある子ども

の社会的スキル獲得を目指した子育て支援実践一親子ムーブメント活動を活用したプログラムの検討。保育学研究, 52(3), 365-378.

- ・阿部美穂子・廣瀬真理（2008）軽度知的障害児の安心、自信、自己肯定感の獲得に関する研究：児童福祉施設併設特別支援学校における実践から。富山大学人間発達科学部紀要, 3(1), 55-66.
- ・趙氷雁・吉利宗久（2019）定時制高校における発達障害の疑われる不登校経験生徒に対する組織的な支援の実践。岡山大学教師教育開発センター紀要(9), 135-149, 2019-03-20
- ・藤永保（監修）（2006）：こころの問題事典。平凡社.
- ・金澤広明（2007）：子どもの自尊感情を育む親・教師。児童心理 61（10），944-949.
- ・河口麻希・七木田敦（2016）通常の学級において特別な支援を必要とする子どもへの支援——「お掃除名人」として認められる過程を通して。広島大学大学院教育学研究科附属特別支援教育実践センター研究紀要, (14), 97-104, 2016-03
- ・川合理恵（2016）実践報告：土曜教室から出発して。北海道大学大学院教育学研究科紀要, 124, 123-127.
- ・北岡大輔、武田鉄郎（2020）二次障害を呈する生徒に対応した授業プログラムの構築—関係性を生かした深い学びと自尊感情を高める試み—。和歌山大学教職大学院紀要, 学校教育実践研究 (4), 43-50, 2020-03-25
- ・文部科学省総合教育政策局地域学習推進課（2020）新型コロナウイルス感染症対策のための

臨時休業等に伴い 学校に登校できない児童生徒の学習指導について（通知）.

- ・文部科学省教育再生実行会議（2017）自己肯定感を高め、自らの手で未来を切り拓く子供を育む教育の実現に向けた、学校、家庭、地域の教育力の向上（第十次提言）.
- ・室橋春光（2016）土曜教室活動の意義（室橋春光先生退職記念特集）--（臨床から基礎へ）北海道大学大学院教育学研究科紀要 (124), 93-105
- ・高垣忠一郎（2009）. 私の心理臨床実践と『自己肯定感』立命館産業社会論集
- ・奥住秀之・国分充・龍田希・飯田正朋・工藤麻由・檉木暢子（2006）教員養成系大学と知的障害養護学校が連携して行なう LD,ADHD, 高機能自閉症等の児童生徒の休日活動支援の試み. 東京学芸大学紀要, 総合教育科学系, 57,313-318.
- ・瀧澤聡・佐藤満雄・小島利佳・和史朗（2015）大学の1研究室を拠点にした発達障害児等の支援 I —関わる者たちの自己肯定感を育成するきっかけ作り—. 北翔大学生涯スポーツ学部研究紀要, (6),59-72.
- ・田島賢侍・奥住秀之（2018）肢体不自由特別支援学校に在籍する児童の2年間の学校生活における自己評価と指導実践：自尊感情・自己肯定感の視点から。東京学芸大学紀要。総合教育科学系, 69(2), 187-198
- ・東京都教職員研修センター（2011）自信やる気確かな自我を育てるために（基礎編）。東京都教職員研修センター研修 部教育開発課.

表2 「対面での活動時」「対面での活動中止時」「中高部通信による遠隔支援時」「リモートによる遠隔支援時」における対象者の気持ちの変容

	楽しい		安心		退屈		積極的		うれしい		落ちつく		さびしい		気楽		充実		緊張	
	得点	SD	得点	SD	得点	SD	得点	SD	得点	SD	得点	SD	得点	SD	得点	SD	得点	SD	得点	SD
対面での活動実施時	5.0	0.00	4.6	0.48	4.5	1.00	3.9	1.17	4.9	0.33	4.6	0.48	4.3	0.97	4.9	0.33	4.8	0.33	2.4	1.32
対面での活動中止時	2.5	0.71	2.8	0.83	2.4	1.11	2.5	1.00	2.9	1.36	3.1	1.17	1.8	1.09	3.4	1.22	2.6	1.22	3.4	1.22
中高部通信による遠隔支援時	4.6	0.70	4.8	0.66	3.8	1.48	3.9	0.93	4.8	0.43	4.4	0.70	3.4	1.65	3.9	0.93	3.6	1.22	3.1	1.54
リモートによる遠隔支援時	4.5	0.71	4.4	1.32	3.4	1.49	3.8	0.97	4.4	0.86	4.5	0.50	2.5	1.58	4.3	0.66	4.4	0.70	2.8	1.79

表3 「対面での活動時」「対面での活動中止時」「中高部通信による遠隔支援時」「リモートによる遠隔支援時」における保護者から見た対象者の気持ちの変容

	楽しい		安心		退屈		積極的		うれしい		落ちつく		さびしい		気楽		充実		緊張	
	得点	SD	得点	SD	得点	SD	得点	SD	得点	SD	得点	SD	得点	SD	得点	SD	得点	SD	得点	SD
対面での活動実施時	5.0	0.00	4.9	0.35	4.9	0.35	4.6	0.73	5.0	0.00	3.7	1.48	4.0	1.60	4.1	1.12	4.9	0.35	3.3	1.39
対面での活動中止時	1.3	0.70	1.7	0.88	1.3	0.70	1.6	0.90	1.9	1.36	1.3	0.70	1.4	0.73	1.9	1.12	1.1	0.35	4.0	0.93
中高部通信による遠隔支援時	4.4	0.73	4.1	0.83	4.0	0.93	3.6	0.73	4.6	0.73	3.4	0.49	4.3	0.88	3.0	0.53	3.6	1.29	4.0	0.93
リモートによる遠隔支援時	4.7	0.45	4.0	0.76	4.1	0.99	3.7	0.88	4.6	0.73	3.4	0.73	4.0	0.93	3.1	0.64	4.1	0.99	2.0	0.76